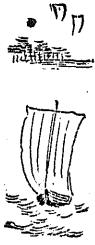


も目の前で轉躓することもあり走り合へる兩
 兒衝突して美事な疣を出す事もあります而し
 怪我をするだらうと云ふて幼児の運動を矢鱈
 制限するの宜しからず或る方などは少しは
 怪我もするが注意深くつて宜しとさへ云ふ
 をも聞かす位ですから十分に見張つて居て
 それで怪我を致した折はどうも致し方があり
 ません唯此場合には其救急法を手落なく行ひ
 出來得る丈け完全な手當をして家庭の怨を招
 かぬ様否よくまわらんなに親切にして下すつ
 たと思はせる位までにしてやるべきです、で
 幼稚園には一通り應急用の藥品や繃帶脱脂綿
 毛布小枕寢臺或は長椅子の様なものを用意し
 保育者は一通り救急看護法を辨へて居り出來
 る事なら近處の醫師を随時招き得る様に致し
 て置きたいもので御座います



幼稚園問題に就いて (承前)

和田實

手は前號に於て幼稚園問題に關する一二の問題
 に關して意見を述べた。所が夫れに就いて下谷
 なる形管氏より左の如き意見を送られた。方今
 名士の言論に非らざれば人は一顧の勞をも快く
 せざる時に當て興味なき學術的言論に對し斯く
 も熱心なる意見を發表せらるゝことは斯道の爲
 め如何にも悦ばしき限りと云はねばならぬ。尤
 も御意見中には小生の記述の粗漏であつた爲め
 に多少誤解された所もある様に思ふが先づ其書
 面を左に掲げて次に小生の意見を述べて見やう
 婦人と子ども第八卷第十一號紙上幼稚園問題なる
 一文を拜讀しました平生職務として従事せる所の
 ものなれば最も愛誦三復しました之を愛誦三復す
 るの至り二三の未だ充分領解し難き點も生じまし
 た之を不問に附せんか必竟斯業に忠實ならざるの
 至りかと考ました即ち夫等の點に就て一應開陳す

る事としました其疑點と云ふは主に幼稚園の非難につきていあります

先づ幼稚園は幼児を早熟にする傾ありとの非難是等の非難は骨て一地方の人より誌上に出されし事ありしやに覺へて居ますが當時是は地方の學校にて單に學校教育にのみ從事せられし人々の幼稚園を推測せられたるものか或は幼稚園より出たる數十の者の中に就て一二の者を認て速断せられたるものにては無きかと雲煙過眼に附したりしが斯會を指導せらるゝ先生がしかく認めらるゝとすれば

後來斯教の上に於ても輕々看過すべからざる事にして充分慎重に研究を要すへき事と考ました夫に就きましては僭越の至とは存じましたが先づ自己の實際見し所に就きて述ぶる事後段の如くであります

私の見る所にては幼稚園に入りたりとて早熟すると云ふ事はなき者と考ます最も時に一二早熟とも見べき幼児なきに非ざるもその性質上然る者にして幼稚園の保育を受たりとて然るにあらず縱令幼稚園に入らざるも元々より然るなり

然ば幼稚園の幼児に就て何か特點とも見るべきものはなきかと求めば物事に能く氣が附くとか或は談話を聴く際にも身を入れて能く聴くとか理解力に富るとかは確にあると思ます是も大率五才以上に就て云のであります一般を通じて云のではありません是等の點は幼稚園保育の効果としてこそ見るべき者にて決して悪き方に見るべき者にはあらざる事と考ます普通一般のところにて幼稚園の保育を経たる者が幼稚園に入らざる者と比べて劣ると云事は道理に於ても無る可く考ます

譬はこゝに學齡に達して小學校に入りたる二歳の兒童ありとせよ一は皆幼稚園の保育を受けたる者二は皆幼稚園の保育を経ざる者之を二教場に各別に集て教るとせよ教師の勞は何れの方に多きと見るか私は確に保育を経ざりし者の方に多きと考ます是は單に空想のみにてもありません一再學校にて新入生徒の有様を實見して浮びたる感であります其亂雜なること恰も新兵が入營したる時の光景も此くやと思れました

幼稚園出身の兒童は遊び半分に物事をするといふ非

難是の非難も幼稚園出身者にありと云へばあり無
 きと云へば無きと云ふ可き漠然たる如き觀が
 ありまして恐くば確然たる判断は下し難かるべく
 却て幼稚園の保育を経ざる者にも多々なるべく必
 ず幼稚園は幼児の事なれば遊びでもある稽古でも
 あると云ふ點は無埋ならぬ事かと考ます然し此く
 は云ものゝ幼兒として惡習癖等ある者は手強くこ
 そせざれば時月を追て漸々矯正し其他言語や行儀等
 に於ても亦然り談話に於ても幼兒の興味を感じ理
 解し得る範圍に於て中に修身の端緒ともなるべき
 者を夾みて聴かしむる等歸着する所はどことま
 ても徳性の涵養、智能の啓發に置くものと私は信
 じます又擧られたる所の或る一部の人の説にも大
 体に於て左袒します規則も改正すべき時機が來ら
 ば改正するは止を得ざるべきか
 又幼稚園出身者につき一より五に至る非難を列
 擧されてあります先づ其一たる幼稚園出の者は
 人に狎れ易さとの事は等は別段弊害として見るべ
 き程の者とは思はず場合によりては効果とも認む
 ることを得べく其餘も亦全然捕捉し安からざる底

の事にして擧て論ずるの價値なきかと考ます
 幼稚園の課目なる説話唱歌遊戯手技等に就て何を
 主とするかと云ふ事には私は皆同一に重要視して
 偏重なきかと考ます必竟幼兒をして喜んで従事し
 交互轉換して倦厭なからしむるのみであります
 遊戯に因りて幼兒を感化誘導するとの事に就ては
 少々不明の點も之れあります如何となれば一体遊
 戯と云へば唱歌の意味を動作に形容して運動する
 者にて精神上よりも寧ろ体育上に影響ある者かと
 考ます
 之を要するに幼稚園に就きての問題は充分慎重に
 其の極處を究めざれば濛々泛々として舩なき舟の
 如く後來斯業の發達亦望む可らざるべく從來と云
 はす今後と云はす若し幼稚園の効果を以て不得要
 領の中に抹殺し去るが如きことあらんには實に歎
 息の至りであります
 然らばすなはち之を解決せんには如何んすべきか
 と云ば夫の耕すことは農に問ひ織ることは女に問
 ふと云ふ譬の如く先づ斯業に従事する人々の意見
 を徹し其多數を占るの言に據り然る後とせば其正

鶴を誤らざるに庶幾んかと考ます

明治四十一年十一月

所存ありて覆面のまゝ、非禮の段は坦懐恕せ

られん事を願はず 東京下谷 形 管

右に掲げたる某氏の意見は大体に於て至極適切なる御意見で小生も別段反對する餘地を見出さぬも

のであるが唯小生の前號に記述せる所は主として

幼稚園の受けたる非難に就いてのみ説明したので

従がつて幼稚園の利益ある方面を閉却した傾があ

つた爲めに小生の眞意を某氏に傳へることの出来

なかつたのは遺憾なことであつたと思ふ。因つて

今某氏の意見の重なるものに就いて小生の思ふ所

を茲に補足して見様と思ふ。併し大体に於て小生

は形管氏と同意見であるから其御積りで御覽を願

ひたい。

一幼稚園出身者の早熟なることに就いて反對され

たことは至極御尤もな議論だと思ふ。殊に現在に

於ては決して幼稚園は子供を早熟さす所ではな

い。併し過去に於ては一般を通じて多少斯る傾の

あつたことは確かな事實であると小生は考へるの

である。是は現今の保育法が行はるゝ前に於て如何に幼稚園保育法が行はれたかと云ふことを歴史的に調べたらば明かな事ではあるまいかと思ふ。且又幼児を早熟にすると云ふことは何も幼稚園のみに限らず。一般の幼児教育即ち家庭教育其ものが過去に於ては悉く皆然りと云ふ可き程であつたから幼稚園に於ても此傾を持つたのは當然の事であつたらうと思ふのである。若し過去の幼稚園が幼児を早熟にしなかつたとするならば當時の父兄は決して自分の子女を幼稚園によさなかつたに違ひないと思ふのである。何んとなれば早熟を好むと云ふことは我國一般の思想で三島博士の云はるゝ如く人種的に早熟なる日本人としては當然の傾向だらうと思ふのである。次に幼稚園出身者是否出身者より決して劣る理由なしとの事、是は小生も双手を上げて同意であることを主張しなければならぬ。幼稚園教育者は専門の教育家である。専門の教育家のする所が家庭に於ける素人のする所に劣ると云ふ理由は到底見出すことは出来ない。之は形管氏の云はるゝ所に

一言も異議す可き所ではなからうと思ふ。併し斯く云へばとて讀者は決して誤解してはいけない。専門教育家の保育した所だからとて決して完全無缺ではない。優れて居ると云ふこと、缺點がないと云ふことは必ずしも一致はしない。故に吾人は從來の幼稚園出身兒は種々なる缺點を持つて居たことを認めると共に之を否出身者に比しては確かに優秀な所があつたと云ふことは之を認めるのである。

一形管氏は次に遊戯を以て幼児教育の主体たらしむることに就いて疑はれた。併し此疑問は同氏の遊戯の定義と吾人の遊戯の定義との差異から來たのである。是は議論にはなるまいと思ふ。同氏の云はる如く唱歌の意味を動作に表はすと云ふ類のものゝが遊戯であると云はるゝならば小生も形管氏と全然同意見であるが併し前號に述べた遊戯と云ふのは形管氏の云ふ所のものとは餘程其意味に於て廣狭の差があるのである。併し其は今茲で小生が自分の意見を述べるよりは本號中に掲げた後藤らとせ氏の意見を御覽になつたらば廣き意味に於ける

遊戯と云ふのは果して如何なるものであるかと云ふことが判るだらうと思ふから茲には略さうと思ふ。

要するに形管氏の意見と小生の意見と衝突する様に見えたのは畢竟小生の記述の粗漏の結果ではあるまいかと思ふ。

兎に角小生等の記述に對して執筆の勞を惜まれなかつたのは同志の士として敬服に堪へぬ次第である。以後希くは共に俱に斯業の爲めに益盡力したいものである。折もあらば常集會等に於ても親しく御意見を伺ひたいし自分の思ふ所も御話して見たいと思ふ。時本誌原稿一切に際し取り急ぎ思ふ所を斯くなん。(湘南生記)

善智識に四輩あり。一には、外は、怨家の如くして、内に厚意あり。二には、人(友)の前にては直諫し、外にては、人の善を説く。三には、病み煩ひの時、又は、罪人となりし場合には、驚き恐れて、これを救ふ。四には、人の實蹟を見てはすておかず。方便を求めて、これを富まさんと欲す。